白塚小学校
学校だより

学校ホームページ

令和5年度　第6号
令和5年6月20日

笑顔あかるく　心あったか　すごしてあんしん

6年生がやぶねり体験を行います！

本年度も地元の中区青年団の皆様に協力していただき、６月２４日(土)に６年生を対象とした「やぶねり体験」が土曜授業として行われます。やぶねりの歴史ややぶの作り方について教えてもらったり、やぶをねる体験をさせてもらったりする予定です。

６月２４日(土)は６年生のみ登校となります。
６年生は午前８時３０分～午前１１時過ぎまで「やぶねり体験」を行います。

伝統の白塚「やぶねり」は、大きな災難や禍を乗り越える力強い生き方を子どもたちに教えてくれています。ここに、その意義もこめて、「やぶねり」について紹介してみたいと思います。

やぶねりって何？

やぶねり神事　津市無形民俗文化財に指定
（　平成 20 年 12 月 5 日指定　）

白塚町に伝わる「やぶねり」は、地元八雲神社の祭礼として、7月10・11日に行われます。やぶねり神事は八雲神社の東側の集落の若者たちによって、昔から行われてきました。その起源は、記録がないため正確なところはわかりませんが、おそらく江戸時代ごろ（350年ほど前）には行われていたのではないかと言い伝えられています。　八雲神社の神様は、「スサノオノミコト」が祀られています。「スサノオノミコト」は、「ヤマタノオロチ」を退治した神様として有名です。

「やぶねり」は、青竹を縄で縛って「やぶ」を作り、その「やぶ」を練りまわすので「やぶねり」と言われます。「やぶ」は、神話に出てくるヤマタノオロチに見立てているといわれ、その中には津島神社（愛知県）のお札とオロチの八つの口にみたてた百合の花のつぼみ八本が入っています。　青竹で作ったやぶがヤマタノオロチとなって白塚の街の中を暴れまわります。「エンヤナッチャ」の掛け声とともに、若者たちがやぶを練りまわし、病気やわざわいを「やぶ」に封じ込め、そのやぶをスサノオノミコトが退治することで、白塚の村が無病息災になるといわれています。退治されたヤマタノオロチは頭を北の方向に向けられ、「イーカリヤ、イーカリヤ」の掛け声とともに　海に流され、津島神社まで戻っていくのだといわれています。

どうしてやぶねりをするの？

昔の白塚町は、漁業や農業を行い、生活に必要なものはぶつぶつ交換をしていた。大雨や台風などで飲み物が汚染され、病気や伝染病が広がっても、医者に診てもらうこともできない貧しいところだった。昔の人は、そんな病気や災いを追い払うことと、豊漁・豊作を願って祭りを考えた。貧しかったので、身近にある竹を利用して「やぶ」を作り、神の力をお迎えする「神迎え」の古い信仰として代々受け継がれてきました。

どんなお祭りなの？

7月10日を「宵の宮」11日を「やぶねり」と呼び、この両日を「ジンジ」と呼んでいる。10日は、各地区の青年団により毎年同じ場所に幟が立てられます。幟を立てる意味は、神様にここで祭りをするので多くの福をください。魔物を退治してくださいとの願いを神様に伝えること。幟の梵天を目印にして神様が天から降りてこられるようにとの思いが込められているとされています。白塚小学校の運動場にものぼりが立ちます。

10日は、行燈・屋台提灯も飾られ、祭りの雰囲気をつくります。夕方になると、神社周辺の道路沿いに露店が並び、町民は夕食をすませた後、宮参りをし、祭りの安全などを祈念して帰宅します。11日は、早朝より青年団が青竹を大里方面に買い出しに行き、八雲神社で「やぶ」を作ります。「やぶ」は20人くらいで編みながら束ねて縛り、長さ18メートル太さ4センチ程度の頑丈なものになります。大蛇に似せた形となります。各地区2体合計6体つくります。

11日夜7時半ごろから三地区（山舗・中本町・旭町）が30分の時間差を設けて「やぶねり」が始まります。「ヨイヨイヨイ」の掛け声とともに、先導提灯を持った青年が「デテカリヤ」（やぶの中のスサノオノミコトが神としての力を発揮して出ていきます）と唱えて通りへ出ていきます。「エーヤナッチャ」の掛け声で民家の通り道を練りまわり病気や災いを「やぶ」に封じ込めていきます。激しく錬ることで、災いや病気を多く封じ込めることができるといわれています。「やぶ」を担ぎ、海へ運ぶ際には、「イーカリヤ、イーカリヤ、ゴンゲンサンノイーカリヤ」（「やぶ」の中の神様スサノオノミコトが津島神社へ帰ります）と掛け声をあげ、「やぶ」の頭部を北向きにして「ヨイヨイヨイ」と海に流し、「やぶねり」が終了します。

お知らせ

7月10日(月)は全校児童、給食後、午後1時20分ごろ下校となります。

7月10日(月)は午後2時以降、南門(海側)は車の出入りはできません。また、午後5時以降、一般の方の学校への出入りはできなくなります。